

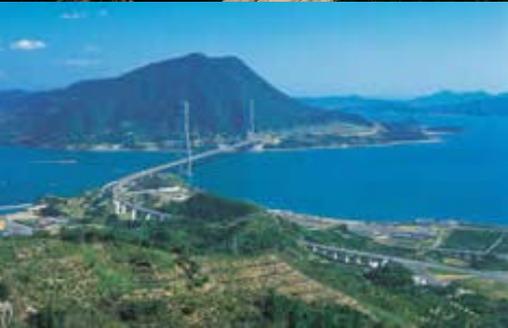
広島県の少子化・人口減少対策



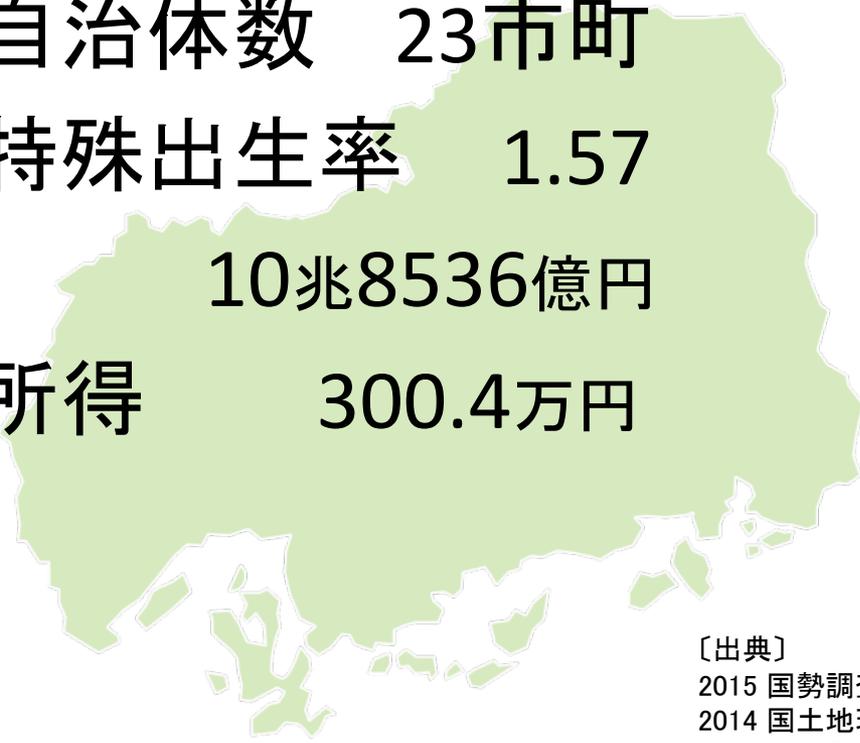
広島県知事 湯崎 英彦

本日本話すること

- I 広島県の概要, 目指す姿
- II 人口の推移や少子・高齢化
- III 少子化対策
- IV 広島県の取組



- 総人口 284.4万人 (慶尚北道と同程度)
- 面積 8,479km² (忠清南道と同程度)
- 県内自治体数 23市町
- 合計特殊出生率 1.57
- GDP 10兆8536億円
- 平均所得 300.4万円



〔出典〕
2015 国勢調査
2014 国土地理院調査
2015 人口動態統計調査)

恵まれた自然環境と都市機能が共存

西日本有数の産業拠点として発展し、
世界トップレベルの「ものづくり技術」が集積

重工業

- 造船
- 鉄鋼
- 自動車

先端産業

- 電気機械
- 電子部品
- デバイス

伝統的工芸

- 熊野筆
- 宮島細工
- など



基本理念

将来にわたって、
「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」
と心から思える広島県の実現

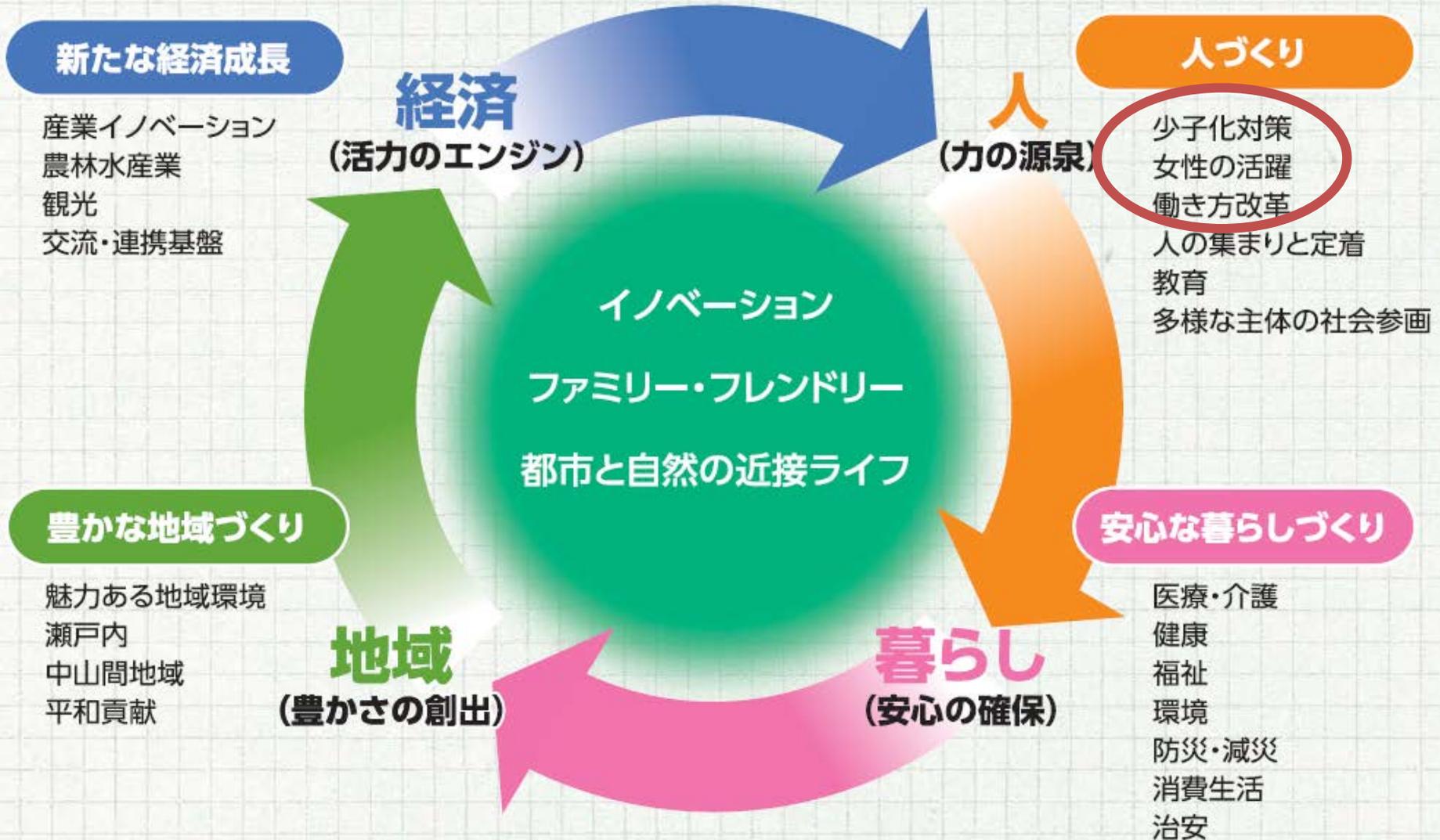
目指す姿 ▶ 今後5年間で目指す姿を県民の皆様と共有するため、新たに設定

仕事でチャレンジ! 暮らしをエンジョイ! 元気あふれる広島県
～仕事も暮らしも。欲張りなライフスタイルの実現～

仕事と暮らしのバランスを考えると、暮らしを犠牲にする働き方や、仕事をセーブして家事の時間を確保するなど、どちらかを優先して妥協しなければと思われがちですが、どちらもあきらめず追求することができる「欲張りなライフスタイル」の実現を目指します。

4つの政策分野の好循環

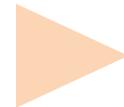
- ▶ 4つの政策分野の好循環をつくり出すことで、県民一人ひとりが抱く希望を「広島県でならかなえられる」と感じることのできる社会を目指します。



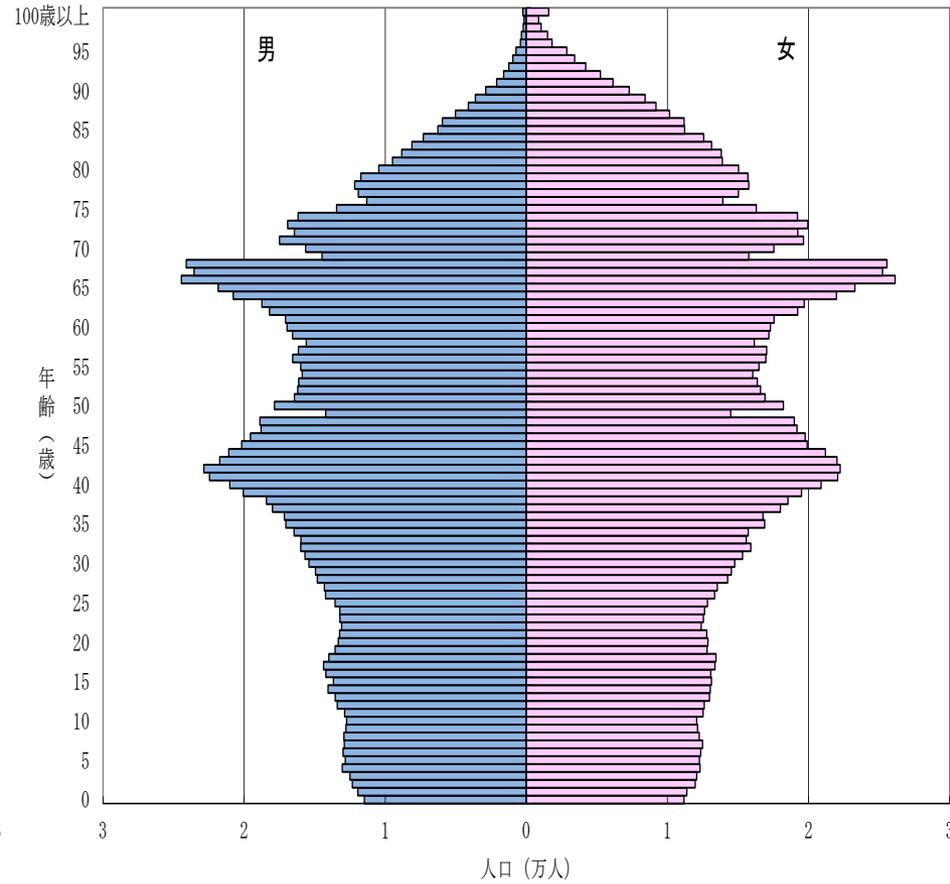
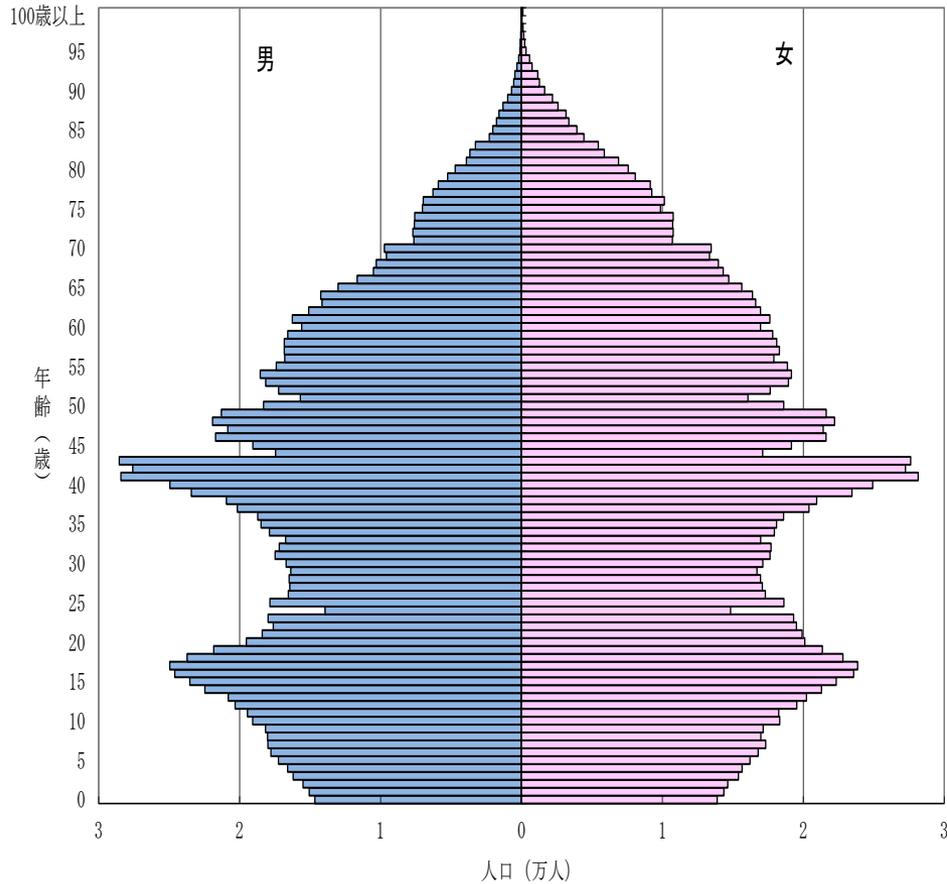
Ⅱ 人口の推移や少子・高齢化

広島県の人口ピラミッドの山は、25年間で大きく高年齢層に移動

1990年



2015年

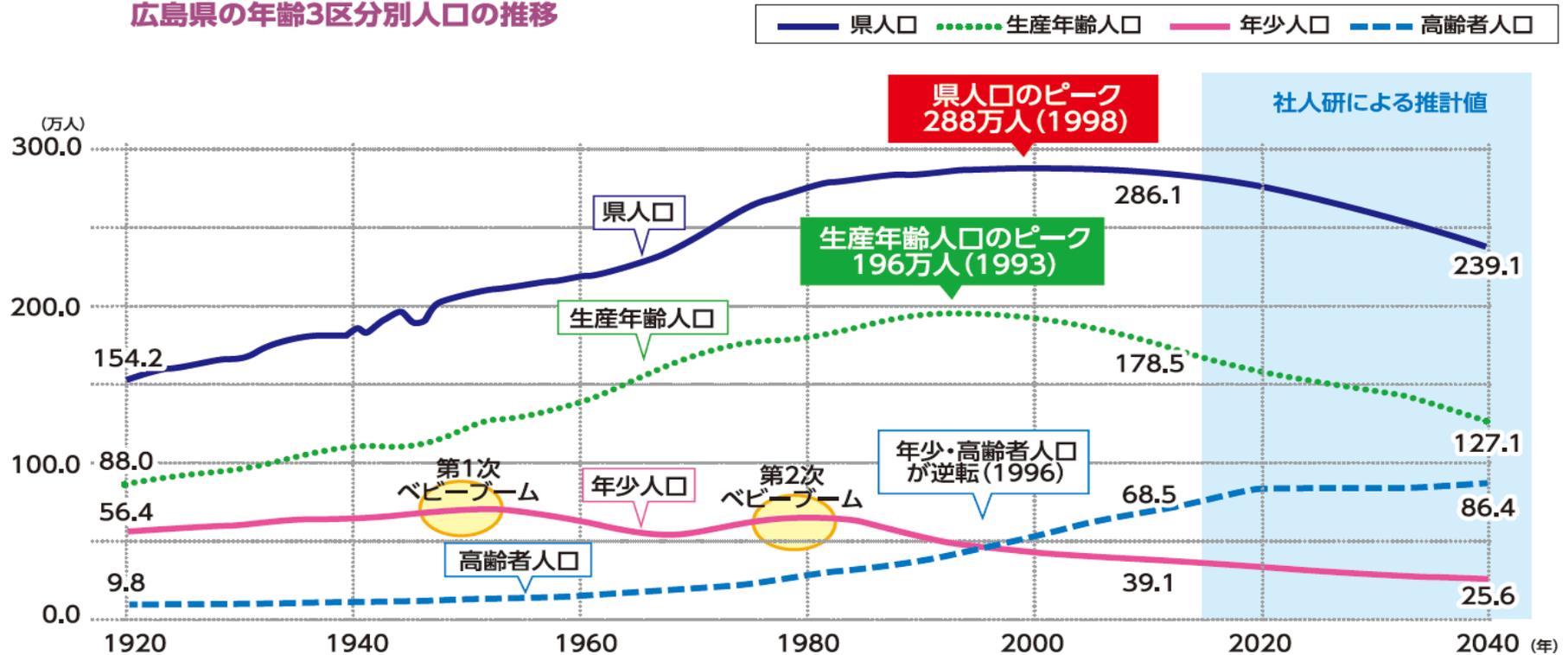


広島県の人口の推移

2010年から2040年にかけて、

総人口は47万人，生産年齢人口は51万人減少。高齢者人口は18万人増加

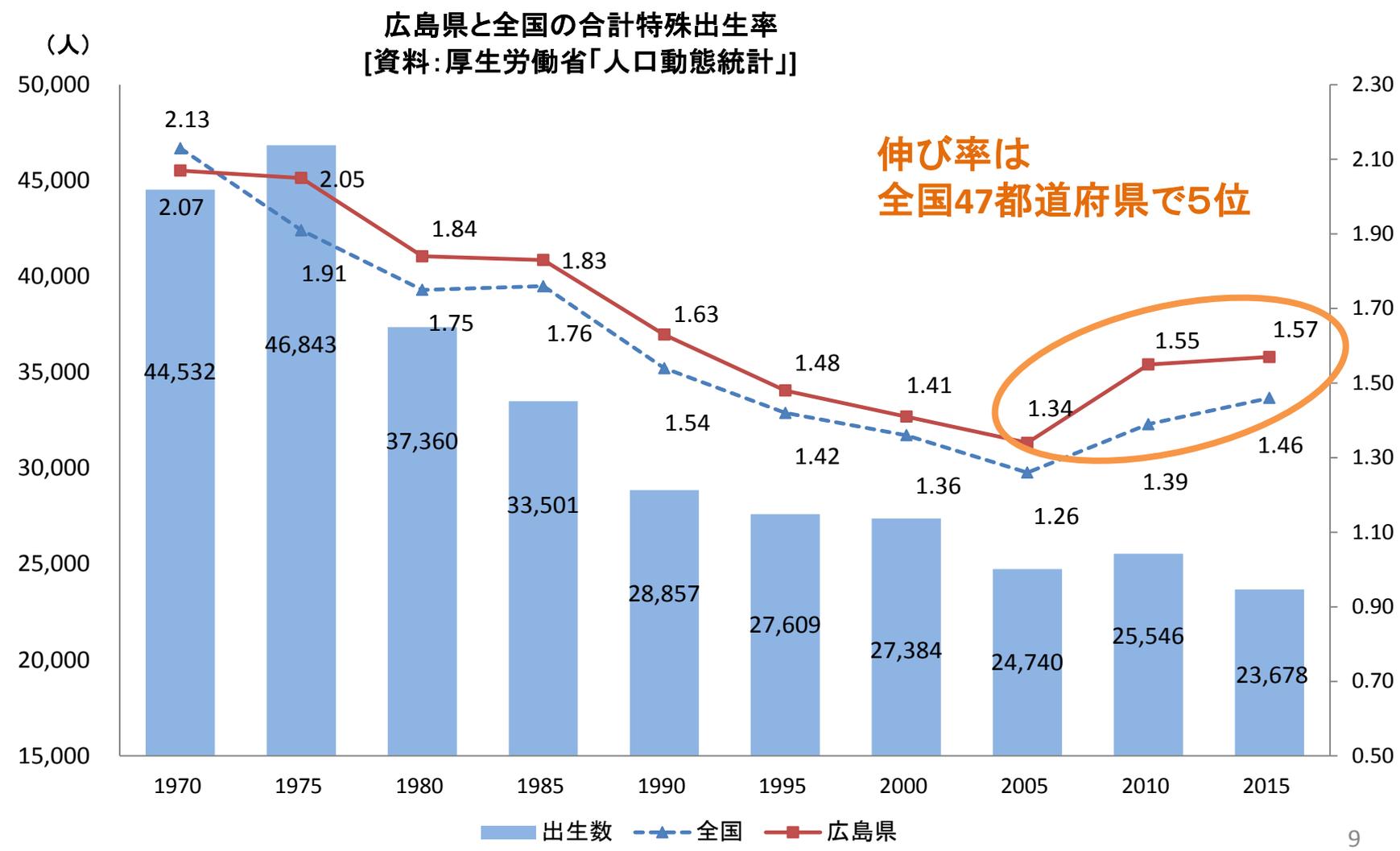
広島県の年齢3区分別人口の推移



区分	H22 (2010)	H52 (2040)
年少人口 (0~14歳)	13.7%	10.7% ▲14万人
生産年齢人口 (15~64歳)	62.4%	53.2% ▲51万人
高齢者人口 (65歳以上)	23.9%	36.1% +18万人

年少人口の減少 ～少子化～

出生数は減少。子育て支援の強化などにより、合計特殊出生率は、2005年から回復傾向。



2060年には、現役世代1.3人で高齢者を支える社会へ



《経済への影響》

県全体の人口が減少すると、消費市場としての相対的な魅力を失うことで、対人サービス関連業種を始めとする企業の県外転出が進むと考えられる。

その結果、労働市場は縮小に向かい、失業と人口の流出が起こり、そのことが更に地域経済の縮小を招くといった『負のスパイラル』に陥るおそれがある。

超高齢社会の進行により、医療・介護のニーズが増加する中、身近な地域で適切な医療・介護サービスを受けられる体制づくりが急務

病床の機能の分化及び連携の促進

- 病床の機能の分化及び連携の促進
- ICTの活用による医療・介護連携体制の整備

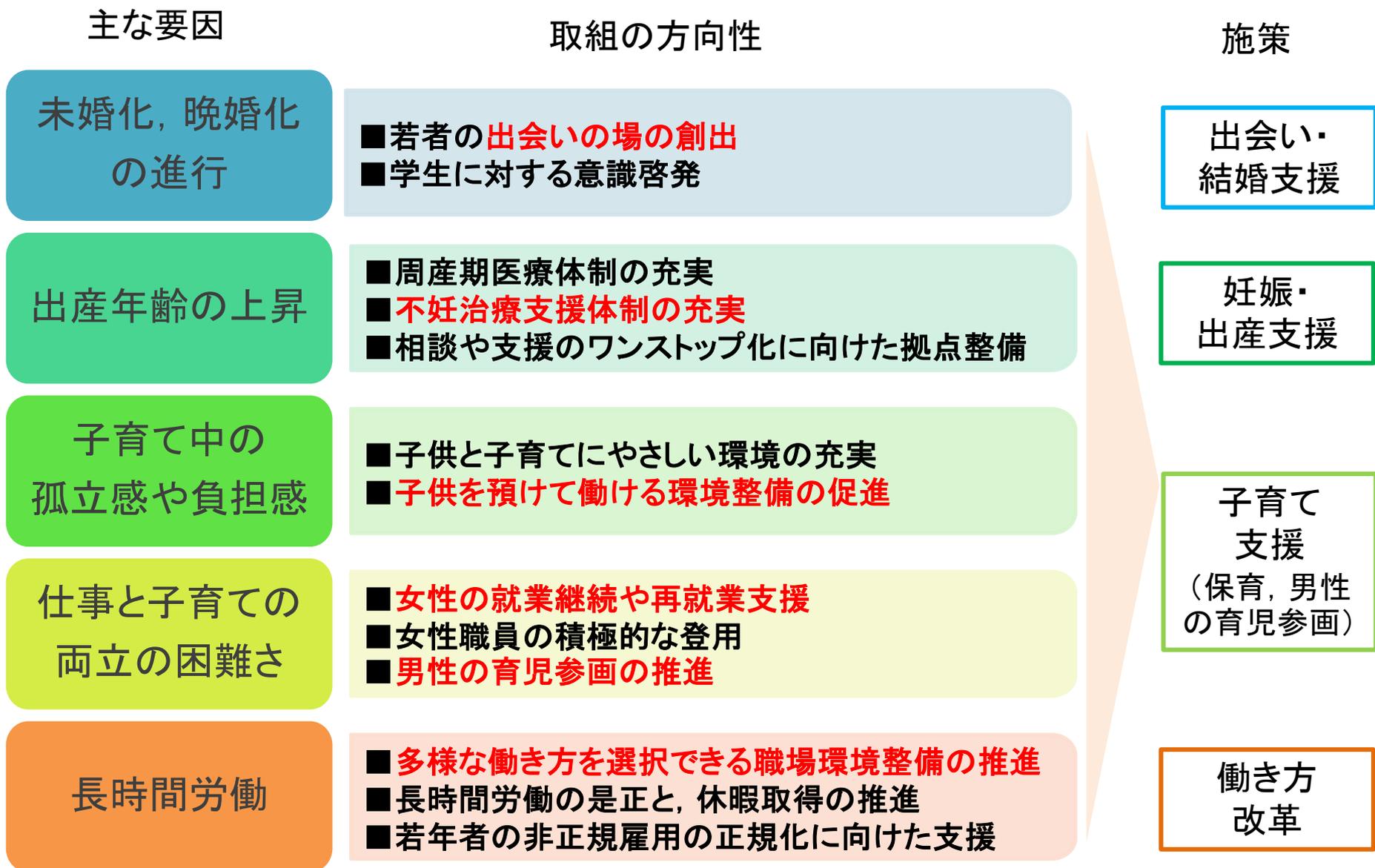
地域包括ケアシステムの確立

- 地域包括ケアシステムの確立
- 在宅医療の充実
- 介護サービス基盤の充実と介護予防の推進
- 高齢者向けの多様な住まいの確保と日常生活の支援
- 認知症施策の充実

医療・福祉・介護人材の確保・育成

- 医療人材の確保・育成
- 福祉・介護人材の確保・育成

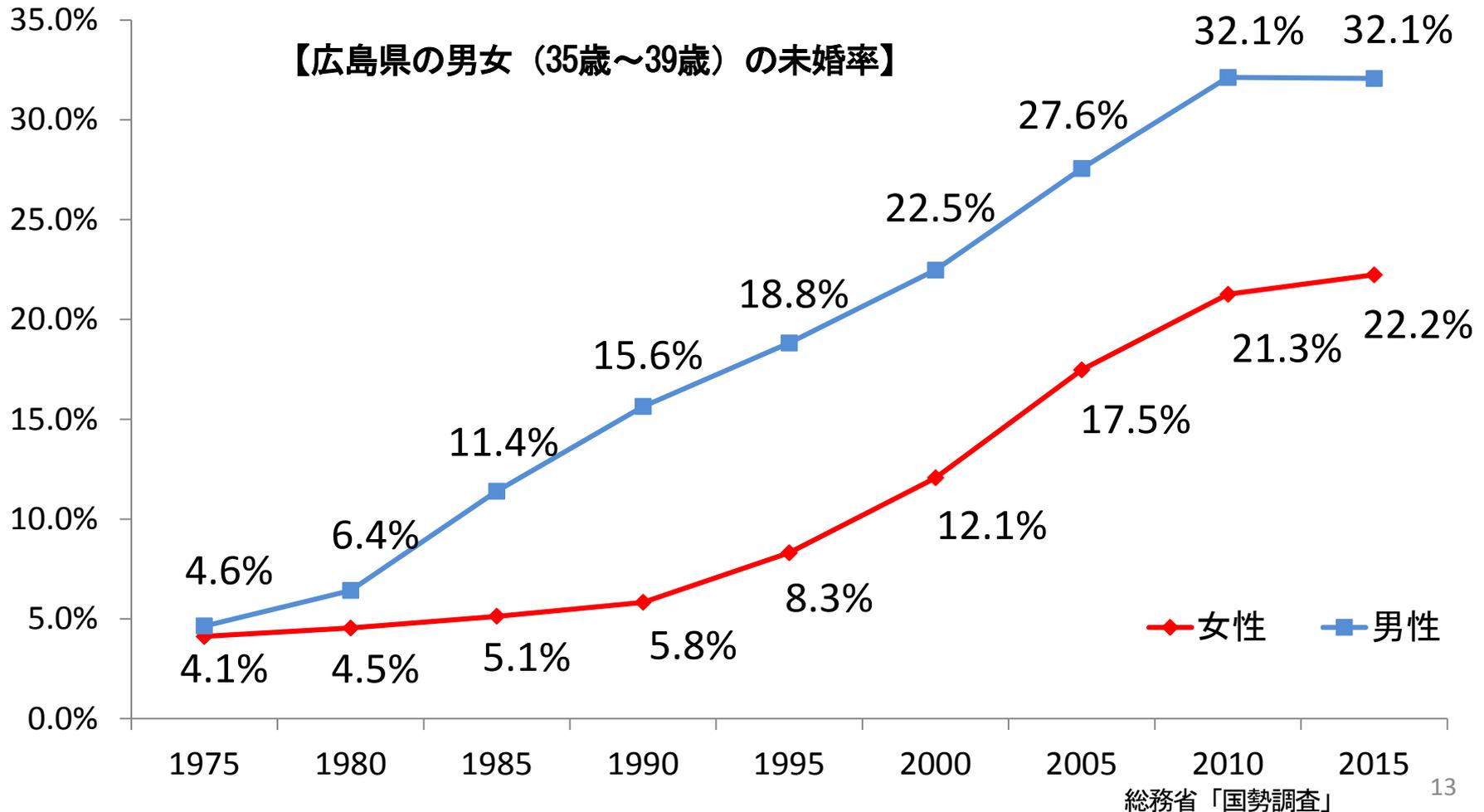
将来のあるべき医療・介護提供体制の実現



出会い・結婚支援

課題分析①未婚率の上昇

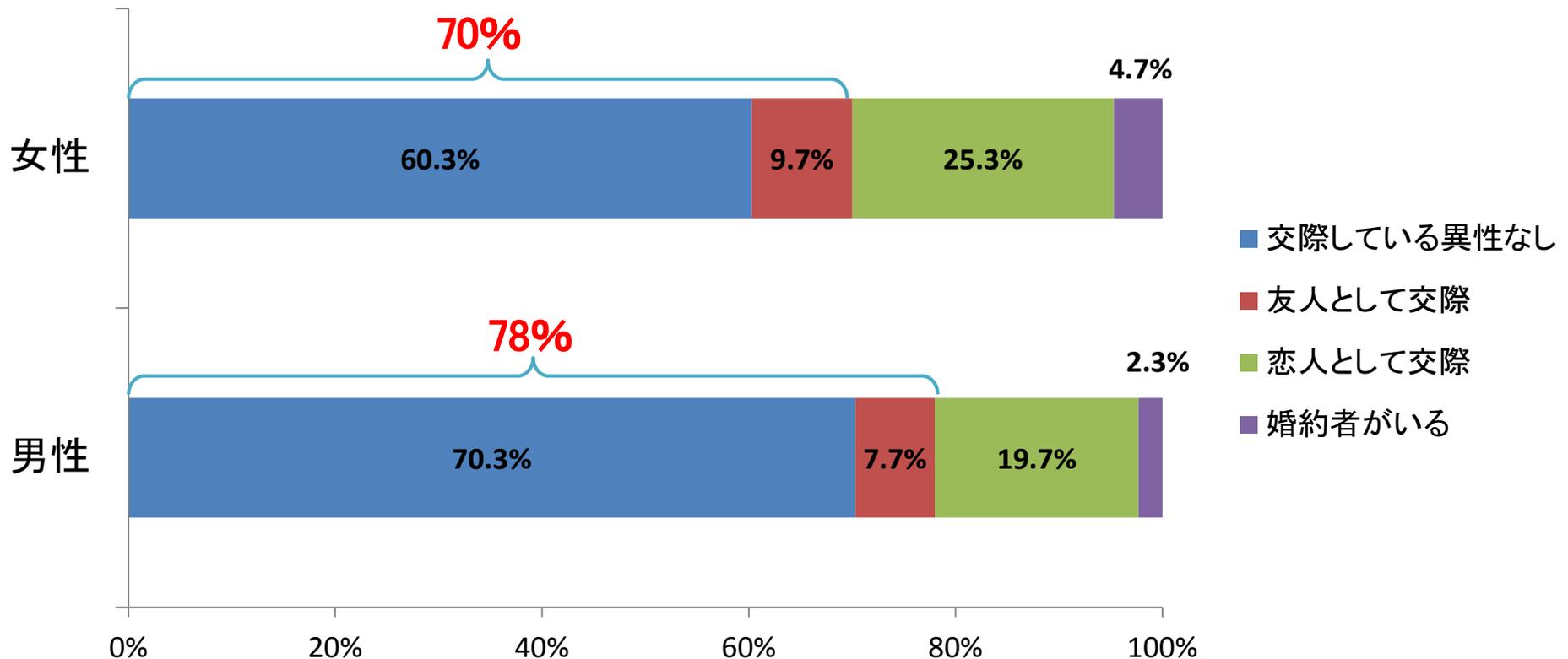
■ 未婚の理由：第1位は「出会いがないこと」



課題分析② 独身男女の交際状況

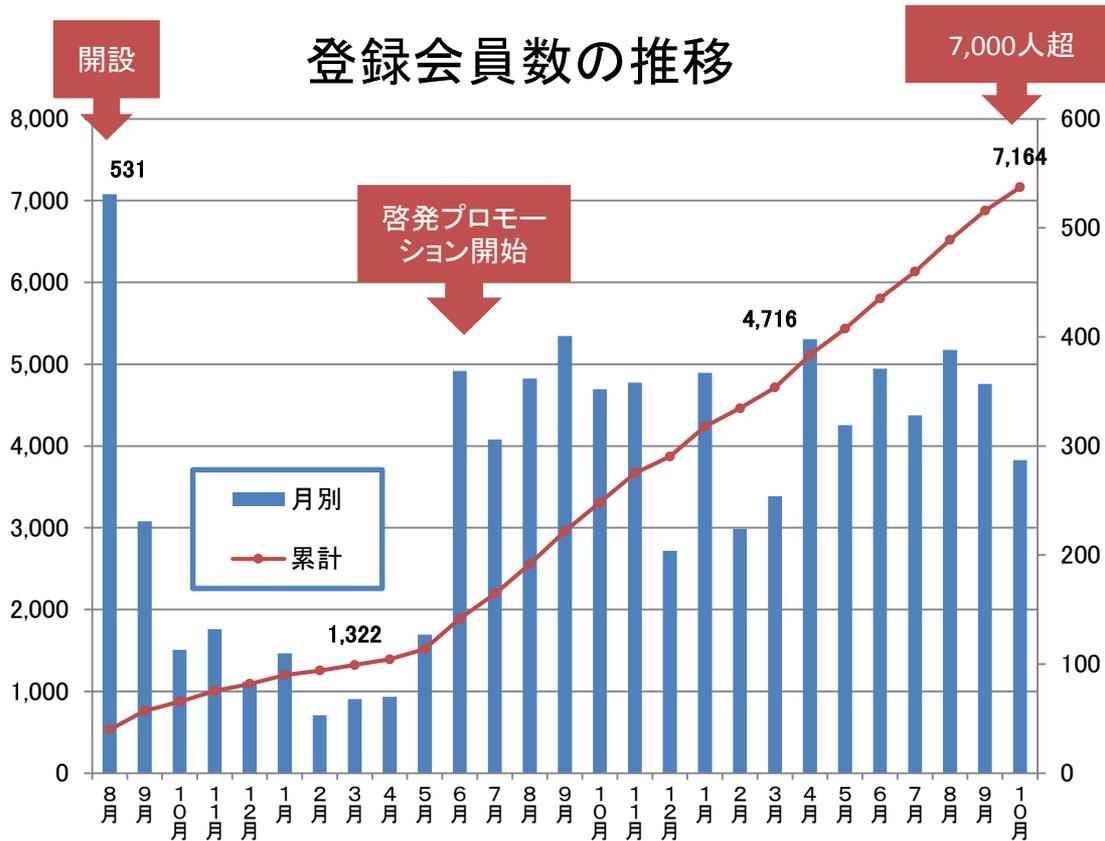
■25歳～39歳の独身者への調査では
女性の約7割, 男性の約8割に恋人がいない。

＜独身男女（25歳～39歳）の交際状況＞



- 結婚を望む男女に対し、イベント等の情報提供を行う拠点としてホームページを開設
- 地域や企業における「おせっかい役」を養成し、活動を支援

登録会員数の推移



＜社員の結婚を応援する企業の登録を促進＞

- 企業担当者セミナー実施
- 独身男女の交流会を開催



2016. 7月 企業間交流ワークショップ

地域におけるボランティアの養成

■結婚支援活動を行うボランティア団体を「ひろしま出会いサポーターズ」として県知事が任命し、その活動を支援

<任命団体>

26団体

<活動実績>

イベント数:50回

イベント参加者延べ数:2,009人

マッチング組数:224組



平均年齢65歳の女性グループが若者の結婚を後押し

■個人ボランティアを養成し、イベントでのおせっかいや、アフターフォローを実施
51名を任命(2016.10月現在)



みんなでおせっかい 「こいのわプロジェクト」の展開 (2015.6月～)



■結婚しない理由「出会いがない」ことを解消するため、県内各地で出会いを創出するイベントを実施

<ターゲットを絞った事業展開>

【200人規模】

若者限定のイベントにより、婚活市場への参加を促進

【40人規模】

レストラン等の経営者が主体となり、結婚を希望する参加者同士をマッチング

【市町との連携】

ノウハウの提供や、集客・広報をサポート



2016.4月 レストランでのイベント



2016.4月 プロ野球応援イベント

約1年半で
成婚報告20組
既に子供も誕生

県イベントに約3,300人参加し、497組のカップルが誕生！

＜啓発プロモーション＞

【マスメディアの活用】

県出身の有名タレントを起用し、インパクトのある広報やイベントにより、メディアの露出を狙い、出会い・結婚支援施策の認知度向上を図る。

【機運醸成】

独身者のみならず、県民全体で応援する機運の醸成を図り、県内におせっかい役を増加させる。



啓発ポスター

結婚支援の認知度15%アップ 県調査2015.6月39%⇒11月54%

「こいのわプロジェクト」のサプライズ効果

県事業がリアルに映画化！ 「こいのわ～婚活クルージング」



広島県の結婚支援事業が映画のタイトルに決定！
2017年秋公開予定。

＜ロケ地＞ 広島県内

＜ポイント＞

- ・独身者におせっかいをする**県職員役が大活躍！**
- ・**県庁会議室でもロケを実施**



【主演は全国的にも有名な俳優】

＜ストーリー＞

お金も時間もある裕福な男性が、
人生のパートナーを探して、お見合
いや県主催の婚活イベントに参加。

知り合った女性との人間模様を描
きつつ、おせっかいにも目覚め、最
終的には一緒にいたいと思える人
は近くにいたことに気づく。



【ビーチでのロケ風景】

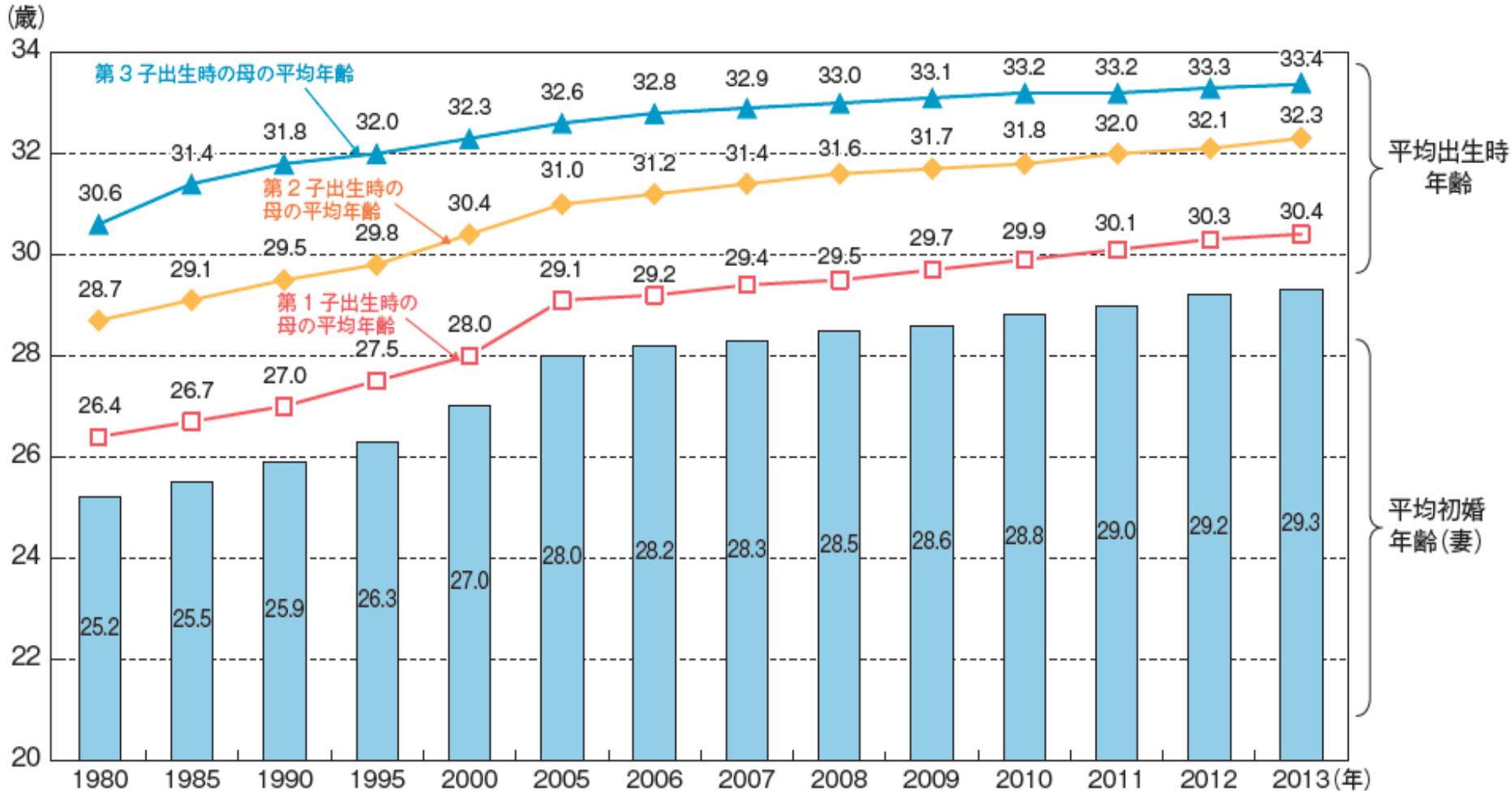


【キャスト知事表敬】

妊娠・出産支援

課題分析① 平均初婚年齢の上昇

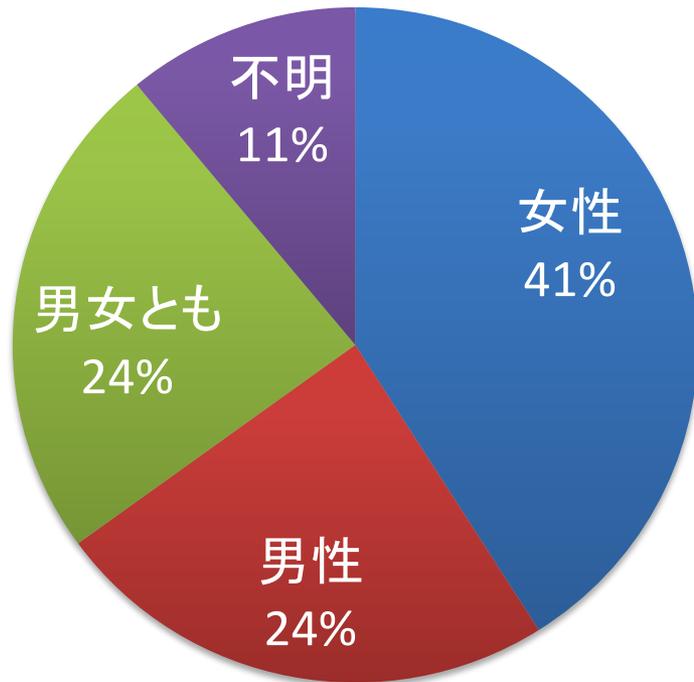
■ 平均初婚年齢は上昇傾向で、出産年齢が高くなる晩産化が進行している。



課題分析② 不妊に悩む夫婦が増加

- 不妊原因の半数は男性にあるが，男性の意識は低い。
- 不妊治療の成功率は，年齢が上がると急激に低下。

不妊原因の割合(男女別)



2010WHOデータ

不妊治療受診患者の成功率

年齢	成功率	治療回数のイメージ
30歳	21.8%	
35歳	17.3%	6回で成功
40歳	8.1%	13回で成功
45歳	0.7%	140回で成功

日本産科婦人科学会
2012ARTデータブック

経済的負担の軽減

<特定不妊治療費の助成>

健康保険適用外の治療(体外受精・顕微授精)の費用を助成
(初回上限45万円)

<不妊検査費等の助成>

35歳未満の夫婦が、共に検査を受けた場合の検査・一般不妊治療費用を助成
(上限5万円)

普及啓発・相談体制の充実

<セミナー&相談会を開催>

2016.6～11月

県内7か所で専門医師による講演・相談

<不妊専門相談センター設置>

不妊・不育に関する医学的・専門的な相談や心の悩み等について、医師や助産師等が相談に対応
(週5日開設)

早い段階からの治療開始と男性の不妊治療を促進

妊娠から子育て期の継続的な支援

「子育て世代包括支援センター」の設置促進（2015年度～）

妊娠期から子育て期にわたるまでの支援を行うワンストップ拠点を整備

医療機関
(産科医)

保健所

児童相談所

民間
支援機関

連携・委託

子育て世代包括支援センター

保健師, 助産師, ソーシャルワーカー など



妊娠前

妊娠期

出産

産後

育児

・不妊相談

・妊婦健診
・両親学級

・家庭訪問

・定期健診
・予防接種
・養子縁組

・子育て支援
・就業支援



▶ イクちゃんサービス (2006年度)

親子で出かけやすい環境をつくるため、
企業や店舗等による子供と子育てにやさしいサービスを提供



参加店舗数
⇒ 6,300店舗超



子供用トイレ
約3,200か所設置

▶ イクちゃんネット (2011年度)

子育てポータルサイトを開設し、情報を一元化



取組開始から約10年
合計特殊出生率が上昇
2004年 1.33
2015年 1.57

いつでも安心して子供を預けて働くことができる保育環境づくり

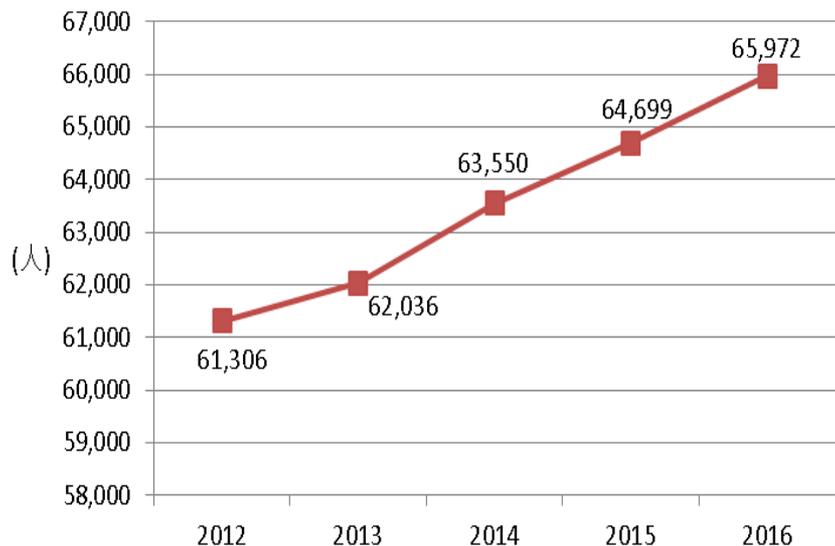
■保護者の保育ニーズが多様化する中で、保育の受け皿を確保

保育の受け皿の確保

<ハード整備>

保育所や認定こども園の新設
や定員増を促進

保育所等入所児童数



保育士等の人材確保

<保育士人材バンク>

2012年に開設し、

専任のスタッフを配置

保育士の求職と保育所からの求人
をマッチング



2012年7月～2016年4月で、
588人の保育士が就職

広島県が実施する先進的な取組

広島県事業所内保育施設『イクちゃんち』(2016年3月)

広島県と、県内企業の大手の広島銀行が共同で、県庁舎内に保育施設を設置

【場所】 県庁舎東館 1階

【定員】 18名(県, 広島銀行, 地域枠6名ずつ)

【対象】 0~2歳



「イクちゃんち」をモデルに、**20企業で新規開設**

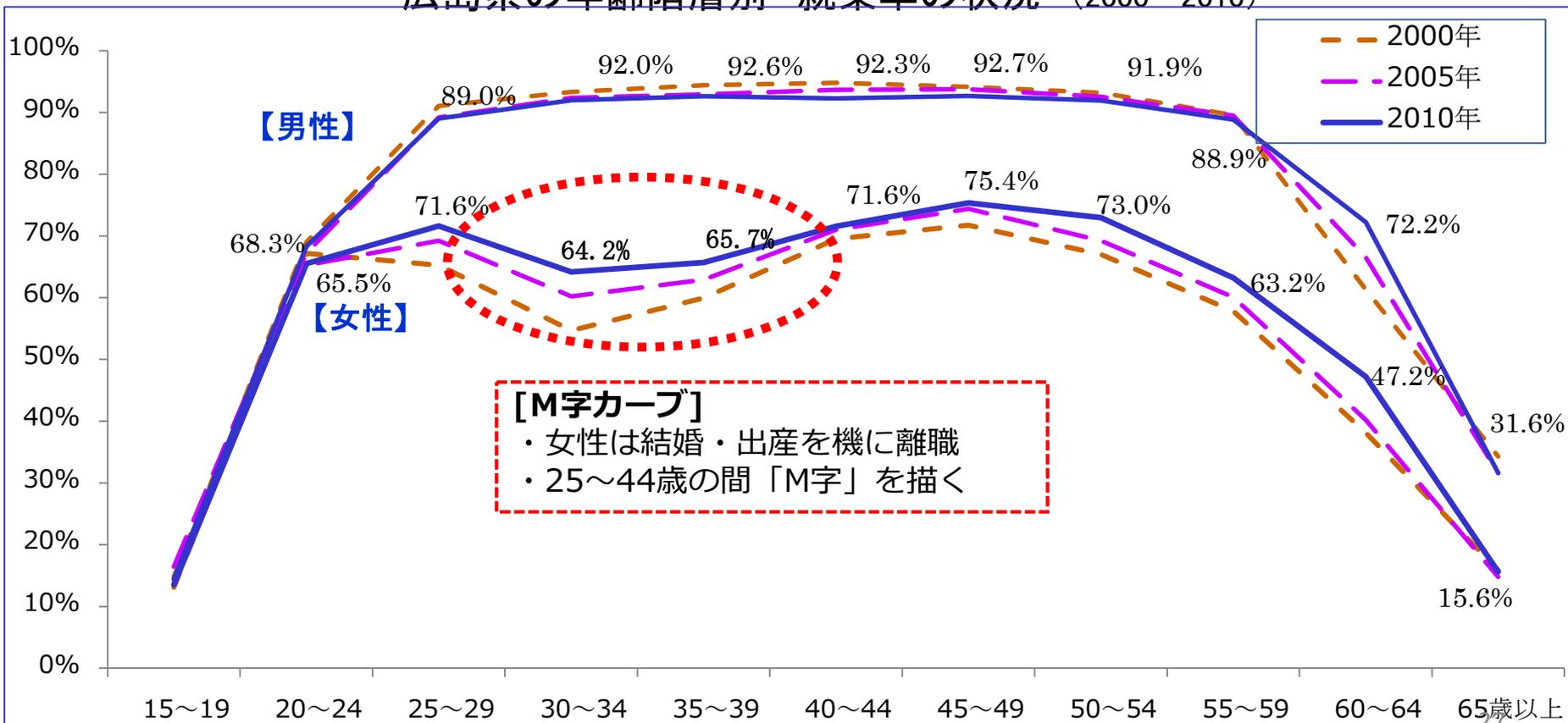
さらに県内の多くの企業への波及効果を期待

働き方改革

課題分析① M字カーブの凹み

- 依然として潜在している女性の力、生産年齢人口の減少が予測
- 女性活躍は、人材活用の幅を広げ、より多様な人材の能力を活かす

広島県の年齢階層別 就業率の状況 (2000~2010)



[M字カーブ]

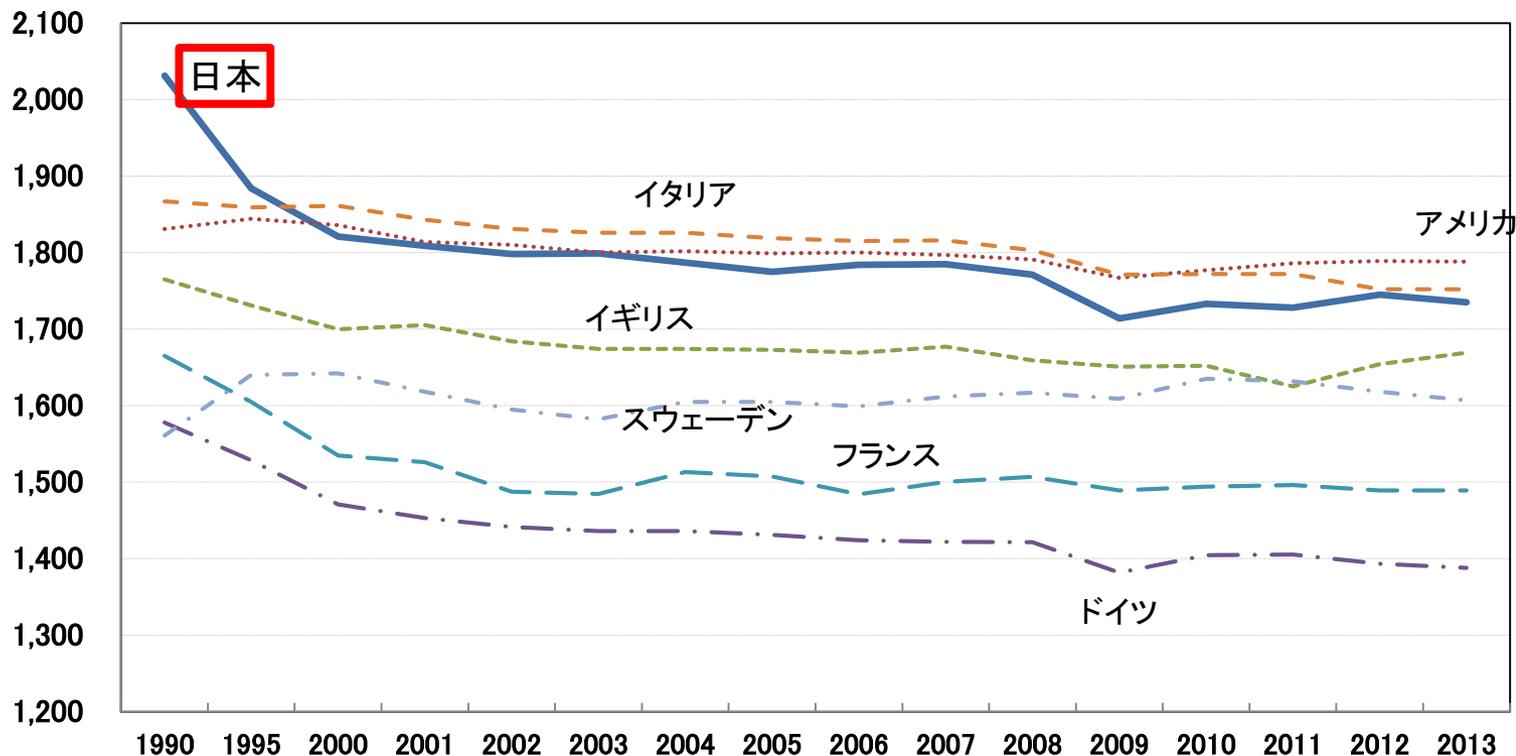
- ・女性は結婚・出産を機に離職
- ・25~44歳の間「M字」を描く

課題分析② 減らない労働時間

近年、横ばいで推移するものの、
週労働時間60時間以上の雇用者は8%（全国8.2%）

年間総実労働時間の諸外国との比較(国際比較)

(時間/年)



働き方改革の好循環

働き方改革に取り組むことで、好循環を生み出すことが重要

働き方改革



働き方改革とは

各職場において、働き方を見直し、生産性の向上を図りながら、長時間労働の削減や休暇の取得促進、多様な働き方を可能とする制度の導入など、誰もが働きやすい職場環境づくりに取り組むこと

短い労働時間で効率的に成果を生み出す

自己啓発の充実や、家族と過ごす時間が増える

好循環を生み出す

新たな発想で、イノベーションが創出される労働の「質」が向上する

視野が広がり、心にゆとりが生まれる

県内企業の実態把握

県内企業の働き方改革の取組状況を調査

■時期:2016.5～6月

■対象:従業員数31人以上の企業等 3,094社

■回答数:1,277社(回収率.41.3%)

■調査内容:

働き方改革に関する制度・仕組みの導入,取組状況,課題など

(休暇の取得促進,長時間労働の削減,フレックスタイム等の多様な働き方等)

経営者の意識と取組の進捗度合

- | | |
|-----------------|-------|
| ・働き方改革を実施している。 | 35.5% |
| ・意義に共感するも取組に未着手 | 43.8% |
| ・意義を感じていない | 20.7% |

働き方改革への取組の加速が急務

県庁内の働き方改革

ICTを活用したワークスタイルの変革

『オフィス』中心から、 『人』中心の働き方へ転換

職場に限らず，自宅や庁外でも業務を遂行でき、
生産性の高い働き方に取り組む。

変革のための新たな取組

- 【2011年】 WEB会議システム導入
- 【2012年】 テレワーク(在宅勤務)制度創設
- 【2013年】 モバイル型シンクライアント端末を導入
フリーアドレス職場導入(一部部署)
- 【2016年】 本庁管理職が率先してタブレットを活用



フリーアドレス職場

イクボスの普及拡大

自ら働きやすい職場づくりに取り組む企業経営者による組織

「イクボス同盟ひろしま」 メンバー**115人** (2016.10月現在)

【活動内容】

- 社会全体の男性の意識改革や行動変容を促すための活動
- 自社のイクメン推進の取組紹介や県内企業への普及
- 男性の育児休業取得を促進するための活動
- 企業経営者の意識改革や職場の働き方の見直しを行うための広報



職場環境づくり ～女性の活躍促進～

女性の再就職支援

わーくわくママサポートコーナー

県内2か所に女性の再就職相談コーナーを設置

【2015年度実績】

相談: 1,474件

就職: 255人)



機運醸成

働く女性応援リレーセミナー

キックオフイベントを皮切りに、県内各地でリレーセミナーを開催



女性が活躍できる環境づくり

働き方改革推進・働く女性応援会議ひろしま

「働く女性応援隊ひろしま」を発展改組（2016.10月発足）
県内の「働き方改革」及び「女性の活躍促進」を一体的・効果的に推進

《構成団体》

経済団体

県商工会議所連合会【代表】
広島経済同友会
広島県経営者協会
中国経済連合会
県商工会連合会
県中小企業団体中央会
県中小企業家同友会
広島青年会議所

労働団体

連合広島

金融機関

広島県銀行協会

教育機関

インターンシップ促進協議会

行政

広島労働局
中国経済産業局
広島県
広島県教育委員会
県内全23市町

※ 必要に応じ意見聴取

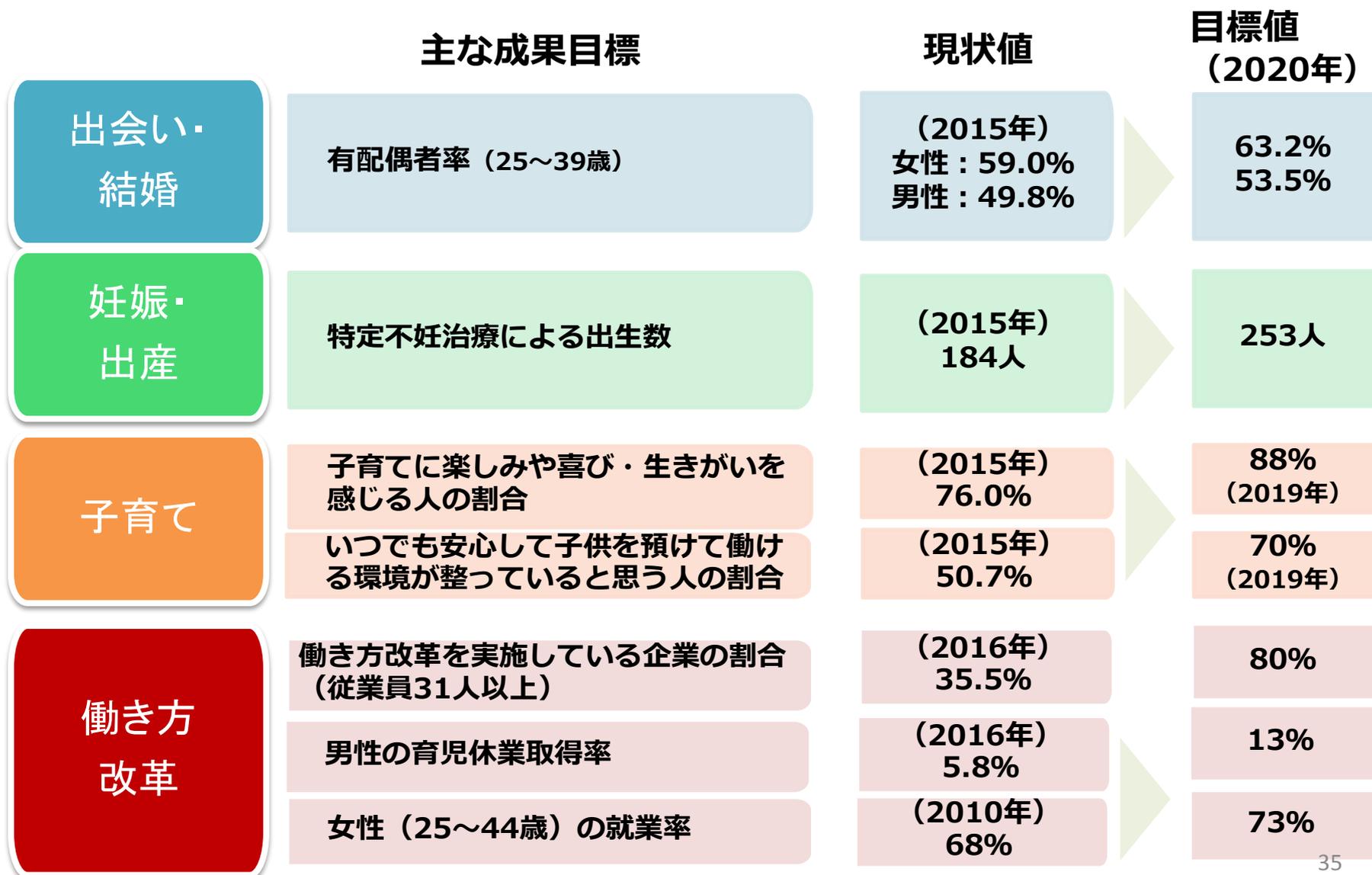
学識経験者，企業等

《取組内容》

- ・県内機運の醸成
- ・県内企業等の取組の促進
- ・その他必要な取組



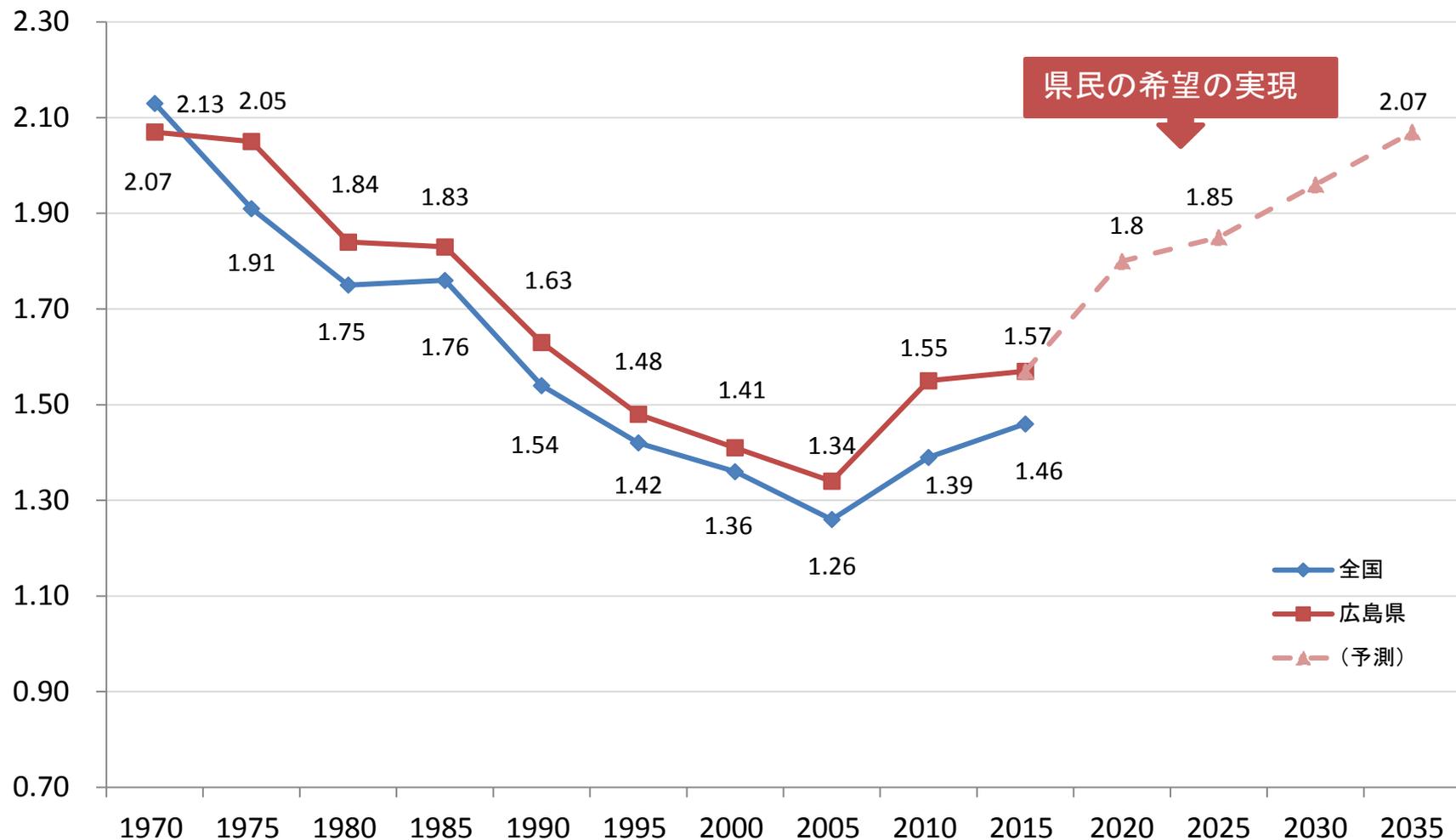
「結婚」から「子育て」まで切れ目のない支援と、働き方改革を一体的に推進



県民の希望が実現し、女性の就業率が向上した場合の試算

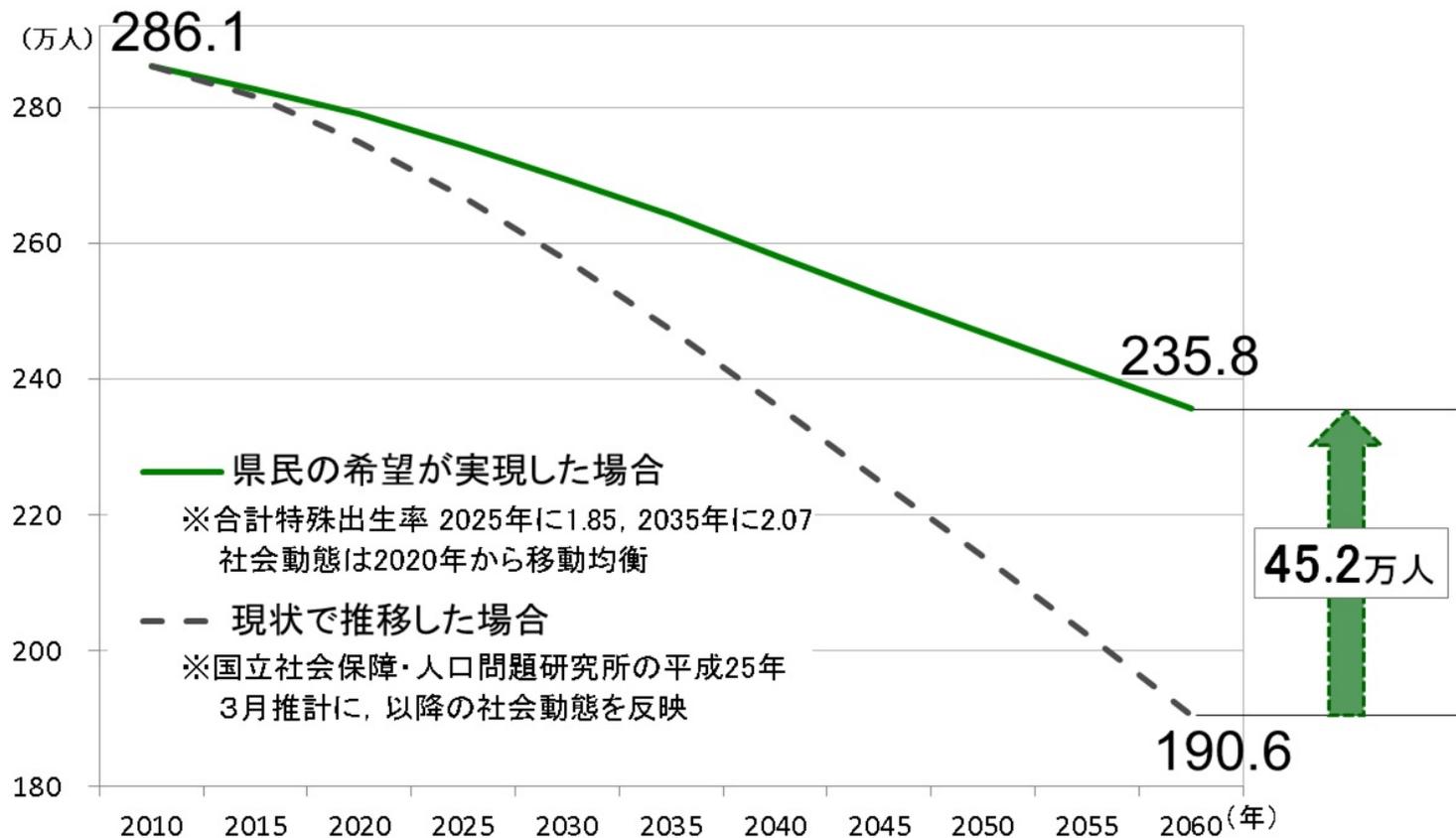
2025年⇒1.85

2035年⇒2.07



人口の将来展望

- ・ 現状で推移した場合、2060年の人口は**約190万人**
- ・ 出生や社会移動に関する県民の希望が実現することで、合計特殊出生率や転出超過が改善した場合、2060年の人口は約235万人となり、現状で推移した場合と比べて**約45万人増加**



結婚を希望する人が出会い・結婚でき、
子供を希望する人が安心して妊娠・出産でき、
希望する時にいつでも安心して子供を預けて働くことができ、
すべての県民が子供と子育てを支え
そして、すべての子供たちが健やかに育つこと



ご清聴ありがとうございました。